



テレビの視聴に関する調査としては、経年的な変化や年代の特徴に関するものが多く見受けられる。図1は、総務省情報通信政策研究所の調査であるが、10代・20代の若者のテレビ離れ、ネット利用の状況を如実に示している。

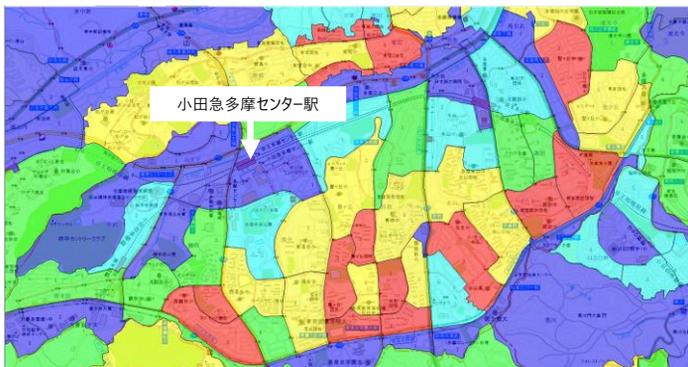
NRIでは、これとは少し視点を変えて地域によるテレビ視聴時間の差を可視化することを行った。

NRIでは、全国に約18万ある町丁目の行政単位を、その地域住民特性に応じて21のエリアタイプに分類し、そのエリアタイプ毎にテレビの視聴時間をアンケート調査で把握して整理した。その結果をテレビ視聴時間が長いエリアタイプからソートしたものが図2である。総務省との調査とも符合して、若者が多いエリアタイプでテレビ視聴時間が短い結果となっている。

但し、21のエリアタイプでは、年齢以外に世帯人数や所得・金融資産、職業等を加味して分類されているため、小さい子供がいるファミリーであれば若い世代でも世帯視聴は長いというような特徴を抽出している。

また、この結果を統計的に処理して町丁目別の視聴時間を推計して地図化したものが図3である。小田急多摩センター駅周辺では、テレビ視聴時間が長いところと短いところがモザイク状に存在していることがわかる。

図3：地域別のテレビ平均視聴時間（平日・休日計）

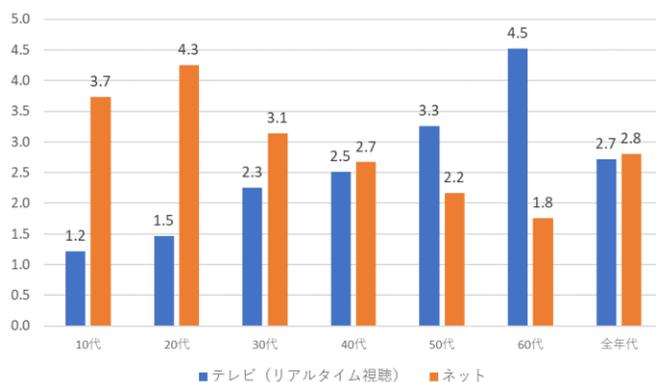


(出所) NRI (地図) ㈱マップル

(注) 色分けは町丁目単位で実施（一都三県を対象）

赤：上位20% 黄：上位20～40% 緑：上位40～60% 薄青：上位60～80% 青：上位80～100%（下位20%）

図1：年代別にみたテレビ・ネットの平均視聴時間（平日）



(出所) 令和2年度情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査報告書（令和3年8月 総務省情報通信政策研究所）

図2：エリアタイプ別のテレビ視聴時間（平日・休日計）

エリアタイプ	テレビ平均視聴時間（時）
生活にゆとりがない高齢者が多く住む地方エリア	3.14
生活にゆとりがない高齢夫婦世帯が多く住む地方エリア	3.13
金融資産が少ない70代夫婦が多く住む郊外地域	3.10
高齢化が進む生活のゆとりが小さい半農地域	3.07
世帯人数が多いファミリーが比較的多く住む郊外マンション地域	3.03
10代の子供を抱え生活のゆとりが少ないファミリー層が多く住む地方エリア	3.02
日本の平均的郊外地域	3.01
超高齢化した農漁村地域	3.00
製造業従事者が多く住む郊外地域	2.99
経済的に恵まれたファミリー層が多く住む郊外マンション地域	2.99
高齢化した三世代同居世帯が多い農漁村地域	2.97
平均的な金融資産を持った高齢者が多い郊外地域	2.97
ファミリー層が比較的多く住む郊外地域	2.94
生活にゆとりのある若い単身借家世帯が多い都市地域	2.84
アッパーミドル層が多く住む低層住宅地域	2.83
小さい子供と住宅ローンを抱えたファミリーが多く住む郊外地域	2.83
若いファミリーが多く公務員宿舎が立地する郊外住宅地	2.83
生活にゆとりがある単身世帯が多く住む都市地域	2.82
住宅取得ニーズが強い若い単身世帯が住む都市地域	2.81
富裕層住宅地	2.77
若い単身世帯が多く住む郊外地域	2.74

(出所) NRI

地域別のテレビ平均視聴時間の推計方法

NRI推計値のテレビ視聴時間データは、2021年5月に全国を対象に実施した5万サンプルのアンケート調査と、NRIが整備しているエリア情報（町丁目単位の所得や金融資産など）とを組み合わせた統計モデルにより推計した値である。

NRI マーケティングサイエンスコンサルティング部 上級データサイエンティスト 武井博一

NRIマーケティングサイエンスコンサルティング部では、シングルソースデータによる生活者の行動を毎日継続的に収集しております。お客様のテーマや課題にあわせて、データの追加調査や分析をおこない、マーケティング課題解決のお手伝いをいたしますので、お気軽にお問合せください。お問合せ先：is@nri.co.jp